

EU Indicators

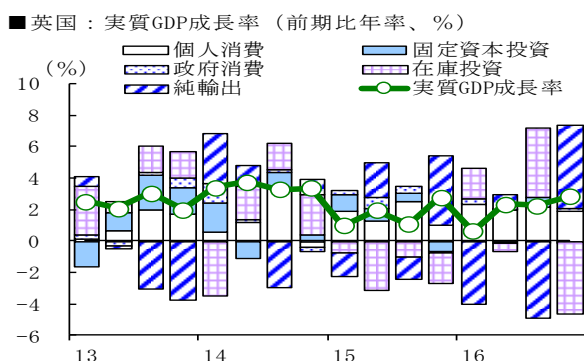
欧州経済指標コメント：10-12月期英国GDP改定値

発表日：2017年2月22日(水)

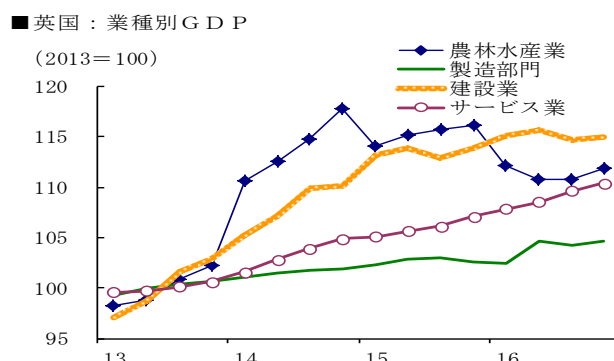
～強い成長に潜む減速の兆候～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- ・ 昨年10-12月期の英国の実質GDP成長率の改定値は、前期比+0.7%と速報段階の同+0.6%から上方修正された。これは速報後に発表された12月の鉱工業生産の上振れなどを反映したもの。新たに発表された需要項目別の内訳は、設備投資が同▲1.0%と成長の足を引っ張ったが、個人消費が同+0.7%と堅調な伸びを継続、住宅投資が同+2.5%とリバウンドし、輸出の急増(同+4.1%)を主因に外需寄与度が同+1.3%ポイントと成長を後押しした。
- ・ 国民投票後の英国景気は、EU離脱による悪影響の顕在化がまだ先なのに対し、ポンド安進行による輸出の増加、海外からの観光客増加(サービス輸出の増加)、海外旅行手控えによる国内消費への代替などが支えとなり、堅調な成長を続けている。ただ、足許でインフレ加速に伴う小売統計に急ブレーキが掛かるなど、ポンド安と原材料価格上昇による悪影響も次第に顕在化している。今回のGDP統計でも、名目雇用者報酬が同+0.1%に減速するなか、消費デフレータが同+0.6%に加速し、実質雇用者報酬は同▲0.5%落ち込んだ。貯蓄率低下でひとまず消費の拡大を続けている形だが、今後は徐々に消費の下押し圧力が顕在化することが予想される。また、サーベイ指標で示唆された通り、企業の設備投資が3四半期振りに落ち込んだ。世界的な製造業循環の改善が下支えとなるものの、EU離脱による不透明感から、企業が投資手控えに動き始めている可能性がある。



出所：英統計局



出所：英統計局

■ 英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
14/10-12月期	1.4	3.4	(2.3)	▲0.6	▲1.0	2.8	(1.2)	(1.0)	16.8	11.6
15/1-3月期	1.3	1.0	(2.5)	3.0	1.7	6.0	(▲8.3)	(▲1.5)	13.3	17.5
15/4-6月期	6.0	1.9	(▲0.3)	2.0	3.6	5.0	(▲10.9)	(2.2)	▲2.8	▲8.9
15/7-9月期	▲0.3	1.1	(2.5)	4.0	2.3	3.2	(▲6.9)	(▲1.4)	▲2.4	2.2
15/10-12月期	1.5	2.8	(▲1.6)	1.6	▲0.7	▲3.6	(1.0)	(4.4)	25.8	8.6
16/1-3月期	3.9	0.6	(4.6)	3.6	1.6	0.4	(▲0.9)	(▲4.0)	▲11.1	1.4
16/4-6月期	6.6	2.3	(1.4)	3.0	0.3	▲0.6	(▲1.3)	(1.0)	4.9	1.5
16/7-9月期	3.5	2.3	(7.1)	3.3	▲0.2	3.8	(0.2)	(▲4.9)	▲10.0	5.5
16/10-12月期	5.6	2.9	(▲2.5)	2.9	0.8	▲0.1	(▲6.2)	(5.4)	17.3	▲1.4

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。